

「P2M クラブ」  
参加者アンケート結果（まとめ）

事務局

第 16 回「P2M クラブ」12 月 14 日（水）

「ICT がもたらすビジネスと社会のイノベーションに向けた共創の取組み」

・・・by 浦田 敏（富士通株式会社 グローバル SI 技術本部）

概要：

昨今のビジネス環境において、企業や業界の枠を超えて知見をつなぎ、企業や社会のデジタル革新を支える仕組みが、オープンな環境を中心に提供されています。そこでは人々の知識を共有し、想像力を高めて、新しいことを生み出していくために、ICT インフラの仕組みに加えアイデア創出の方法、それらを使いこなす技術というものを洗練していく必要があります。その為には「場」の創出が重要であり、共創実践のための物理的な場に加えて、イノベーションの創出を加速させる試みとして、ビジョンデザイン等、人間系の取組みが行われています。これら「価値共創の場」について、弊社の「Human Centric Intelligent Society に向けて」の取組みを、下記の観点から議論させていただき、多様な分野からなる皆様から忌憚のないご意見をいただければ幸いです。

- (1) デジタルビジネス・プラットフォーム
- (2) 従来システムと新しいシステムの連携
- (3) 人と人との共創の場
- (4) 業種間の共創の場

プロフィール：浦田 敏（URATA Satoshi）

富士通株式会社 グローバル SI 技術本部 先端技術統括部 マネジャー。銀行や年金、保険、証券等のシステム開発を経験。お客様の業務と連携したシステム企画・提案・構築・運用を経て、現在、先進技術をシステムインテグレーションに活用する取組みに従事。PMP®。

先日は「第 16 回 P2M クラブ～朝活セミナー～」に参加頂きましてありがとうございます。大変有意義な会合だったと思います。「ICT がもたらすビジネスと社会のイノベーションに向けた共創の取組み」というテーマで、話題提供頂きました浦田敏さん(富士通株式会社グローバル SI 技術本部)に改めましてお礼申し上げます。

「共創の取組み」について、事例も含め、包括的に興味深いお話を伺いました。

IOT/AI、API エコノミー、SOR/SOE、オープンイノベーションなど共創への取組みが注目されています。目的も手段も曖昧な業種をまたぐ領域にこそビジネス及び ICT の新たなフロンティアがあるという捉え方です。そこでは言葉も文化も異なる異業種間での「議論→共創」が期待されますが、その具体的な方法は明確ではありません。アプローチとして、ビジョンデザインやハッカソン（集中的に作業をするソフトウェア関連プロジェクトのイベント）などの取組みがあります。共創へのインセンティブとして、社内ベンチャーや 20%ルールなどの取組みも模索されていますが、人材の囲い込みとのバッティング等で十分には機能していないようです。プロジェクトの成功要因も失敗要因もコミュニケーション、コーディネーション、チームマネジメントに集約されることとして人間系のアプローチも模索されています。「SECI モデル（野中郁次郎）」や「合議の知を求めて—グループの意思決定（亀田 達也）」などの概念も紹介されました。一緒に考えて、Lean Startup（無駄のない事業立ち上げ）を目指すための「場のマネジメント」と「マネジメントの革新」が必要ということです。日本の売りは何か？ 日本的なものを学びたいというニーズが見直されている今、改めて、P2M のフレームワークで共創プロセスを議論し「日本的共創のあり方」を炙り出したいと感じたセミナーでした。浦田さんにはオンラインジャーナル 1 月号に、「まとめ」をご寄稿頂く予定です。そちらも参照くださるようお願いいたします。お寄せ頂きましたアンケート結果は、下記の通りでした。（総数：5 件）

質問 1：参加の目的・期待は達成されましたか？（YES：5 件）

質問 2：今後も「P2M クラブ」に参加されますか？（YES：5 件）

質問 3：プログラム構成（全体）について？（良かった：5 件）

質問 4：今回の話題提供について？（良かった：5 件）

（コメント）

- ・異業種間の共創が新しい価値を生み出すかもしれないという考え方が概ねわかった。
- ・共創、イノベーションは日本の多くの（日本だけではないが）企業が抱えている問題であり、共通項が多かった。
- ・共創という考え方は、AI、ネットワーク技術の急速な進展に対応するため、これからもっと重要になると思います。
- ・成果が出ない原因→目的／動機がない→義務感が無い→共創は生まれない、というループが理解できた。
- ・ICT が興味深い。

質問 5：Networking（参加者交流）について？（良かった：4 件、その他：1 件）

質問 6：事務局対応について？（良かった：5 件）

質問 7：「P2M クラブ」の企画・運営に事務局として参加頂けますか？

（NO：2 件、Other：3 件）

質問 8: 「(参加者満足度) 最高の P2M クラブ」へと進化させるためのアイデアがありましたら、教えて下さい! (自由記述)

・例えば、本日の浦田さんの話題にあった食品廃棄物問題を、超実践的に考える(共創してみる)場をテーマとしてはどうでしょう?

・異質なメンバー(例えば、ベンチャー企業や VC)を迎えて、話を聞くことも刺激的かと思いました。

質問 9: 次回の「話題提供者」として推薦(自薦・他薦)したい方をご提案下さい!

・ Deep Learning 系や AI 系、VC ファンド等

質問 10: その他、ご提案やご意見など、ご自由にご記入ください!

・朝活は初めての参加でしたが、電車も空いているし、何より午前の充実感が違います。また参加させてもらいます。

・セミナー等を申込した際の返信メールは、①セミナー名、②日時を記載して頂ければ、何を申し込んだかが明確になって良いと思います。

## 第 15 回「P2M クラブ」10 月 12 日(水)

「巨大災害に立ち向かう複業時代の組織論と PM の可能性」

～PM 視点で読み解く『チームの力』～

・・・by 齊藤 哲也(一般財団法人 日本総合研究所 客員研究員)

概要:

巨大災害の増加、未曾有の超高齢社会の突入、自治体の消滅可能性など、誰も経験したことのない局面が急速に増えています。かつてないスピードで前提条件が変わる中、従来の PM 手法では対応しきれない問題が多くなったと感じませんか? さらに、優秀な人材の転職、鬱や介護による離脱など、企業人材は流動性を高め、副業ならぬ複業の時代に突入し、組織の在り方そのものが問われるようになりました。他方、急増する社会的課題に向き合う非営利組織では、限られた資源、限られた時間で、成果を最大化する PM スキルの潜在的ニーズが益々高まっています。しかしながら、動機、スキル、経験が異なる人材が一緒になって取り組むプロジェクトでは、ボランティアの活用といった高度なマネジメント能力が要求されるため、従来の手法では太刀打ちできません。しかも、専門知識がない人でも活用できるシンプルでわかりやすい新たな PM 手法が必要とされていることから、この中に PM 普及の大きな鍵があると感じています。そこで今回の P2M クラブでは、近年最も困難な局面に、10 万人以上のボランティアが躍動し、50 以上のプロジェクトが自律的に運営された、国内最大級の事業「ふんばろう東日本支援プロジェクト」を題材に、PM 視点で再整理することにより、従来の PM との違いや、新たな PM の勘所と可能性について掘り下げたいと思います。皆様と有意義な議論ができますことを楽しみにしています。

・ ふんばろう東日本支援プロジェクトとは?

- ・ 従来の常識を覆す異例づくめの PM とは？
- ・ 成果志向で組織を動かす原理原則
- ・ コンフリクト回避・解消の勘所
- ・ 機能するチームをつくる 6 つの原則

プロフィール： 齊藤 哲也 (Tetsuya SAITO)

合同会社ローカルデザインネットワーク／代表として地域活性の基盤となる人材育成に取り組む傍ら、(一財)日本総合研究所／客員研究員、(株)地域活性プランニング／パートナーとして、3つの顔を持つ地域活性コンサルタント。ボランティアでは地域情報誌プロデューサー、NPO 事務局長など複数の役割をこなし、実践力を研鑽。内閣府「マネジメント人材育成支援に関する調査(地域課題の解決)」研修講師など実績多数。

昨日は「第 15 回 P2M クラブ～朝活セミナー～」に参加頂きましてありがとうございます。大変有意義な会合だったと思います。

「巨大災害に立ち向かう複業時代の組織論と PM の可能性」～PM 視点で読み解く『チームの力』～というテーマで話題提供頂きました齊藤哲也さん(一般財団法人日本総合研究所 客員研究員)に改めましてお礼申し上げます。「ふんばろう東日本支援プロジェクト」を事例に、巨大で複雑なクライシスに対し、ボランティアはどのように対応したかと観点から、「構造構成主義」による原理原則に基づいたアプローチを紹介頂きました。システム以前のカオス(又は複雑系)の状態では、スコープも QCD も定義できず、組織を前提とした伝統的な PM 手法は機能しません。しかしながら、世の中の動向は益々そのような予測不可能で想定外の事象が増えています。このような事象に対処する方法(手法)はあるのでしょうか？そこには、PM の進化すべき方向性があるように感じました。

初めに齊藤さんから、この会合に参加した動機(関心)は何か？という問い掛けがありました。それに対して、

- ・ 地域活性化に関心がある
- ・ 『チーム力』(西條剛央著)に関心がある
- ・ 一般的な PM とどう違うのか知りたい
- ・ 多様性の社会、複業時代の組織論について関心がある
- ・ PM 管理ツールを誰が使うのかに関心がある
- ・ ソーシャルイノベーションと NPO、及び新しいビジネスモデルに関心がある
- ・ 東日本震災のような状態で、本当に必要なものかを把握したい
- ・ 自分の仕事の中で PM としてどうやったら良いかのヒントにしたい
- ・ ・ ・ とさまざまでしたが、齊藤さんから、下記のようなコメントが寄せられています。

> できるだけ皆様のご関心に沿った内容にできればと冒頭に一言ずつ参加者の皆さんからも関心事項を伺えてよかったです。

> ちょうど資料でも、「何がよいか(価値)」を問う前に、「何をしたいのか(目的・関心・

欲望)」を明らかにしなければならない。と書きましたが、私からの話の前に、「今日、私は何を聞きたいのか？何故この会に参加しているのか？」の問いは、このテーマと参加者自身を繋げる問いかけであり、この問いをそれぞれ考えてもらうことで当事者意識が生まれたように感じました。参加者から「気づきを得られた」という意見が多かったように、この問いが入ったことで、伝達率も高まったのではないかと思います。

「知識労働者の動機づけは、ボランティアの動機づけと同じ」（ドラッカー）という言葉があるように、営利組織が非営利組織に学ぶ点が多い半面、非営利組織もまた営利組織の蓄積から学ぶ必要がありそうです。このテーマについては、引き続き、SIG等で議論を深めていければと期待しています。

お寄せ頂きましたアンケート結果は、下記の通りでした。（総数：8件）

質問1：参加の目的・期待は達成されましたか？（YES：7件、other：1件）

質問2：今後も「P2Mクラブ」に参加されますか？（YES：6件、other：2件）

質問3：プログラム構成（全体）について？（良かった：8件）

質問4：今回の話題提供について？（良かった：7件）

（コメント）

・プロジェクトマネジメントを新たな視点で確認できた。

質問5：Networking（参加者交流）について？（良かった：5件、その他：3件）

質問6：事務局対応について？（良かった：7件）

質問7：「P2Mクラブ」の企画・運営に事務局として参加頂けますか？

（YES：1件、NO：2件、Other：3件）

質問8：「(参加者満足度) 最高の P2M クラブ」へと進化させるためのアイデアがありましたら、教えて下さい！（自由記述）

・プロジェクト活動を実践してはどうでしょうか？

質問9：次回の「話題提供者」として推薦（自薦・他薦）したい方をご提案下さい！

・特に無し

質問10：その他、ご提案やご意見など、ご自由にご記入ください！

・今後のPM活動の参考になりました。

第14回「P2Mクラブ」2016年9月14日（水）

台風により中止！

第13回「P2Mクラブ」2016年6月8日（水） 7：00～9：30

「P2Mの価値と普及を世界規模で考える」

・・・by 田中 弘 (前 PMAJ 理事長)

概要：

日本プロジェクトマネジメント協会の P2M ガイドブックは、世界のプロジェクトマネジメント標準の範囲をはるかに超える懇切丁寧な内容と、世界で初めて「プログラムマネジメント」に実質的な意味づけを与えた点で、世界プロジェクトマネジメント界に大きな貢献をしたと言われています。実際に日本国内だけではなく、ウクライナ、ロシアなど CIS 圏、セネガルなどフランス語圏アフリカ諸国、フィリピン、ベトナム、中国の一部などに P2M を愛し、実践しているビジネスマンや研究者が多数います。その一方で英米など、P2M に全く見向きもしない国もあります。

プロジェクトマネジャーは他のどの職業人より自由で、人から押しつけられる権威には興味を示しません。P2M を含め PM 体系の価値は、発行者ではなく、ユーザーが決めています。P2M 実践者は自分の信じるところにより、P2M の価値を自ら創っていききたいものです。

皆さんにとって P2M とは何でしょうか。

当日は、自由人に戻った話題提供者より、次のようなトピックスを取り上げたいと思います。

- ・ プロジェクトマネジメント体系の価値は実践者が創るもの（発行者ではない）
- ・ P2M が評価される国と関心を持たれない国、評価する人（業界・専門領域）としない人

- ・ 「日本発」のプラスとマイナス
- ・ PM 体系の市場はどのように決まっているか
- ・ P2M の訴求すべき点（田中の解釈）

ミッション起点

P & PM = 価値創造活動のフレーム

強いシステム理論準拠

プロジェクトマネジメント共通観：P2M 第 2 版（システムズ・アプローチ、プロジェクトライフサイクル観に基づくプロジェクト最適化、場の理論の応用、ステークホルダーマネジメント、共通マネジメント理論の準用）

P & PM コミュニティー理論

ファイナンス組成論

- ・ 田中の P2M の教え方（European P2M）  
トピックスの取捨選択（受講者に価値がないトピックスも多い）  
ミッションの導き方の工夫  
システムセオリーを前面に出したプログラムマネジメント体系  
プロジェクト & プログラム構想化に 4 つのルート（エンジニアリングプロジェ

クトにおけるシステムエンジニアリング、ソフトシステムアプローチ (SSM) による社会問題解決型プロジェクト提起、社会システム分析→サービスイノベーションプロジェクトの構想化、マネジメントのフレームワークアプローチを利用したブレインストーミングによるプロジェクト提起) SMART 応用プロジェクト評価 (Specific : 具体的である、Measurable : 計測可能である、Achievable : 達成可能である、Result-based : 成果を重視している、Time-bound : 期限が明確である)

イノベーション・プロジェクトマネジメントワークショップ、イノベーション・プログラムマネジメントワークショップ (各 1 日)

プロフィール: 田中 弘 (TANAKA, Hiroshi, Ph.D.)

Pacific & Atlantic PM Innovation (個人イニシアティブ) 代表。フランス SKEMA 経営大学院博士課程国際教授、国立大学法人北陸先端科学技術大学院大学客員教授など、フランス (1 校)・セネガル (1 校)・ウクライナ (3 校)・ロシア (1 校)・日本 (3 校) で大学院教員を務める。戦略・イノベーションプロジェクト & プログラムマネジメント学専攻。日揮株式会社出身、日本プロジェクトマネジメント協会 (PMAJ) 創設者・前理事長、世界 PM フォーラム元チェアマン (2005-2007)。経済産業省傘下 (一財) 海外産業人材育成協会 (HIDA) 途上国向プログラム & プロジェクトマネジメント研修コース・ディレクター。元 JICA 短期専門家 (プロジェクト & プログラムマネジメント)。世界 30 カ国で 150 回におよぶ基調講演・招待講演実施。日本 (経済産業大臣賞)・ウクライナ (財務省栄誉瑞光章)・インド (国家計画大臣グローバル PM リーダーシップ表彰) の国家表彰受賞、他に国際表彰 10 件。

全世界のプロジェクトマネジメント界にネットワークを有す。1997 年慶應義塾大学法学部政治学科卒。2006 年フランス Ph.D. その後ウクライナ国立工業大学から名誉学位 4 件授与。

昨日は「第 13 回 P2M クラブ～朝活セミナー～」に参加頂きましてありがとうございます。10 名の方に参加頂きまして、大変有意義な会合だったと思います。

「P2M の価値と普及を世界規模で考える」という興味深いテーマで、話題提供頂きました 田中弘様 (前 PMAJ 理事長) に改めましてお礼申し上げます。ウクライナ、フランス、セネガル、インド、フィリピン、中国、・・・と世界を股にかけて、「P2M のエバンジェリスト」として長年活躍してこられた田中さんならでの貴重なお話を伺うことができました。

世界の PM 業界の中での P2M の位置づけ、その課題と可能性、文化風土との関わり合いなど、豊富なネットワークを駆使しての田中節に参加された方々も大いに満足されたようでした。

印象に残っている言葉としましては、

・プロジェクトマネジメントのパフォーマンス自体を見れば日本はダントツ世界一。

- ・ 但し、完成したプロジェクトが成功かどうかの検証は不十分である  
(世界では PM の成功とプロジェクトの成功を区別するのは常識である)
- ・ 科学としての PM では、日本のプレゼンスは先進国・中進国で最下層レベル  
(世界の PM 科学ジャーナルに全く寄稿無し→世界は日本を無視)。西欧の論文でだれも日本の PM 研究者の成果に触れない。
- ・ 隣国中国は PM 研究でも大国である。但し、英語で論文を書ける研究者は少ない。
- ・ 日本は PM 研究では内向きで自己中心的である。

また、

- ・ 「P2M を含め PM 体系の価値は、発行者ではなく、ユーザー（実践者）が決めるもの。」
- ・ 「P2M 実践者は自分の信じるところにより、P2M の価値を自ら創っていきたいものです。」

というお言葉は、忘れないようにしたいものです。

一方、

このような田中さんのグローバルでダイナミックな業績を継承して、次代に繋ぐ方は誰かということが心配になってきました。田中さんには、ご自身の後継者の育成にもご尽力いただきたいと、老婆心ながらお願いする次第です。

お寄せ頂きましたアンケート結果は、下記の通りでした。(総数：7 件)

質問 1：参加の目的・期待は達成されましたか？ (YES：7 件)

質問 2：今後も「P2M クラブ」に参加されますか？ (YES：7 件)

質問 3：プログラム構成（全体）について？ (良かった：7 件)

質問 4：今回の話題提供について？ (良かった：7 件)

(コメント)

- ・ P2M が世界でどういう位置にあるのかに興味があった。
- ・ 田中先生の貴重なお話を聴けて非常に良かったです。
- ・ 学術的なアプローチとして、P2M を捉えることができました。
- ・ やはり田中先生のお話は次元を超えて素晴らしいです。
- ・ 自分が何をすべきかについて、強いサジェッションを頂きました。
- ・ 期待以上の成果でした。

質問 5：Networking（参加者交流）について？ (良かった：5 件、改善の余地あり：1 件)

質問 6：事務局対応について？ (良かった：7 件)

質問 7：「P2M クラブ」の企画・運営に事務局として参加頂けますか？

(YES：2 件、NO：3 件、Other：2 件)

→参加頂ける方は、お手数ですが、事務局までメールを頂きたくおねがいします。(事務

局)

質問 8 : 「(参加者満足度) 最高の P2M クラブ」へと進化させるためのアイデアがありましたら、教えて下さい！ (自由記述)

・学術と実務の両面でコンテンツを組み立てれば良いかと思えます。

→ご提案ありがとうございます。可能な限り、そのような工夫をしていきたいと思えます、(事務局)

・別途、事務局と相談したいと思っています！

→ありがとうございます。お待ちしております (事務局)

質問 9 : 次回の「話題提供者」として推薦 (自薦・他薦) したい方をご提案下さい！

・PMAJ 三浦さんから「GAPPS から持ち帰った知見」について

→了解しました。打診してみます。(事務局)

質問 10 : その他、ご提案やご意見など、ご自由にご記入ください！

・ありがとうございました。

・事務局へ：お疲れ様でした。

## 第 12 回「P2M クラブ」2016 年 4 月 13 日 (水) 7 : 00 ~ 9 : 30

「戦略プログラムマネジメント」～イノベーションと「あなたの視点」～

・・・by 清水 基夫 (日本工業大学大学院 客員教授)

概要 :

プロジェクトマネジメントとプログラムマネジメントの違いは何だろうか？

もちろん、複雑性やリスクという観点では明らかな違いがある。別の見方をすれば、プロジェクトは、巧拙は別として、だれがやっても大体は似たようなプロセスに帰着するだろう。他方、特に戦略プログラムの場合、どのようなアプローチをするのかは、実にさまざまである。プロジェクトマネジメントが現実性と客観的妥当性を目指すのに対し、プログラムマネジメントは高い価値を求めてユニークネス (すなわち主観的な創造性) を目指すといえよう。

プログラムマネジメントの成功には何が重要か？「あなたの視点＝主観」という切り口で、成功のためのより具体的なアプローチについて参加者にも加わっていただいで議論します。

プロフィール : 清水 基夫 (日本工業大学大学院 客員教授)

日本電気(株)にて宇宙ステーションシステム本部長、無線事業本部主席技師長などを経て 2001 年より名古屋工業大学教授・副学長、日本工業大学大学院教授としてプログラムマネジメント体系の研究に従事。2015 年定年退職、客員教授。

工学博士 (東京大学)、日本工学アカデミー会員、PMP®、PMAJ 前副理事長、P2M ガイドブック改訂 3 版改訂委員長、ENAA 元 PM 委員会委員長。

著書に P2M ガイドブック（共著）のほか「実践プロジェクト & プログラムマネジメント」（日本能率協会マネジメントセンター）、” Fundamentals of Program Management” (PMI®) 他。

昨日は「第 12 回 P2M クラブ～朝活セミナー～」に参加頂きましてありがとうございます。12 名の方に参加頂きまして、大変有意義な会合だったと思います。

「戦略プログラムマネジメント」～イノベーションと「あなたの視点」～という興味深いテーマで、話題提供頂きました 清水基夫先生（日本工業大学大学院 客員教授）に改めましてお礼申し上げます。P2M の開発に深く関わられ、その理論構築に貢献されてきた先生から、P2M の中核 概念である「ミッションプロファイリング」について、踏み込んだお話を伺う ことができました。特に、戦略型プログラムにおいては「表面的な言葉としてのミッション理解」ではなく、「独自の視点に基づいたミッションの本質を炙り出す（プロ ファイリ ング）」ことが、「イノベーション成功の要件である」というお話には、大いに 感銘を受けました。日々のプログラムにおいて、果たして「独 自の視点に基づいたミッションの本質の炙り出し（プロファイリング）」が徹底して行われているのか？ 組織の縛りという中でそれが中途半端に済まされてはいないか？ 昨今の日本企業の不振の原因はそこらにあるのではないか？・・・など様々な視 点が提起されました。また、『「正解思考」の 人、権威主義者、独立した思考 能力や自らの価値判断力や自らの意志がない人にはプログラムマネジャーは務まらない。』という言葉も心に残っています。参加された方々からも、本質的な 質問が多く出され、時間を忘れて議論が展開されました。参加者満足度も 100%で した。清水先生には、「まとめ」をオンラインジャーナル 5 月号にご寄稿頂く 予定です。そちらも参照くださるようお願いします。

お寄せ頂きましたアンケート結果は、下記の通りでした。（総数：9 件）

質問 1：参加の目的・期待は達成されましたか？（YES：9 件）

質問 2：今後も「P2M クラブ」に参加されますか？（YES：9 件）

質問 3：プログラム構成（全体）について？（良かった：9 件）

質問 4：今回の話題提供について？（良かった：9 件）

（コメント）

- ・「戦略ミッションの本質」という言葉がささりました。
- ・ビジネス視点で、腹落ちする話が多く、大変参考になりました。
- ・ミッションプロファイリングの本質について知見を深めることができました。
- ・プログラムのミッション（目的や目標）は、プロジェクトが進行すると、忘れてしまいがちなので、原点に戻ることも大切と感じました。

質問 5：Networking（参加者交流）について？（良かった：9 件）

質問 6：事務局対応について？（良かった：9 件）

質問 7 : 「P2M クラブ」の企画・運営に事務局として参加頂けますか？

(YES : 0 件、NO : 6 件、Other : 3 件)

・出来るだけご協力したいです。

質問 8 : 「(参加者満足度) 最高の P2M クラブ」へと進化させるためのアイデアがありましたら、教えて下さい！ (自由記述)

・「P2M クラブ」として、ミッションプロファイリングをテーマにした講演を増やして欲しい。

→検討いたします。話題提供者を募ります。(事務局)

・参考する問題意識を書ける人は、事前を書いて、開始前に共有する。

→次回からチャレンジしてみたいと思います。(事務局)

質問 9 : 次回の「話題提供者」として推薦(自薦・他薦)したい方をご提案下さい！

・特に無し

質問 10 : その他、ご提案やご意見など、ご自由にご記入ください！

・いつも仕事の悩みを抱えての参加なのですが、受講後、その悩みを解決する方向性が見えてくる気がします。また参加させていただきます！

・経営者の資質が企業の存続に重要なファクターとなっている時代に、機を得たテーマであったと思います。

・大変勉強になりました。ありがとうございました。

・本日はありがとうございました。

## 第 11 回「P2M クラブ」2016 年 2 月 10 日(水) 7 : 00~9 : 30

「サービス業におけるイノベーション」

・・・by 林 健太郎(株式会社 竹中工務店 エンジニアリング本部)

概要 :

私が所属する建設会社においても、従来の工事請負とは異なる「サービス」まで事業対象にする PPP・PFI などにも取り組んでいます。また、未来の社会的課題を解決するための新規事業開発においても、新しい「サービス」の検討を行っています。

皆様ご存知の通り、P2M が提唱する価値創造は、スキーム、システム、サービスという全体像での取り組みであり、製造業だけでなくサービス業にも適用できるものです。製造業から取り組みの進んだ品質管理の概念は、サービス業にも活かせるのではないかという研究が 10 年に亘り行われ、来春にはその全体像が一般公開される予定になっています。

「サービス品質向上実践羅針盤」と名付けられたその中には、サービス業におけるイノベーションの必要性が描かれています。今回はこの「サービス品質向上実践羅針盤」についてその概要を紹介しますので、皆様からの忌憚のないご意見を頂ければ幸いです。

プロフィール : 林 健太郎 (はやし けんたろう)

(株) 竹中工務店 エンジニアリング本部 副本部長。建築設計、PM、経営企画、を経て、未来の市場を切り拓く技術・商品企画開発、技術営業業務に従事、一級建築士、ファシリティマネジャー、PMS。

本日は「第11回 P2M クラブ～朝活セミナー～」に参加頂きましてありがとうございます。10名の方に参加頂きまして、大変有意義な会合だったと思います。

「サービス業におけるイノベーション」という興味深いテーマで、話題提供頂きました林健太郎さん(株式会社 竹中工務店 エンジニアリング本部)に改めてお礼申し上げます。製造業の品質管理に学び、サービス業におけるイノベーションにつなげるという広範な研究成果を、「お客様満足」「おもてなし」「従業員満足」「商品開発」などのキーワードを使って、分かり易くご紹介頂きました。参加された方々からも、「期待以上のお話を伺うことができた。参加者満足度 100%！」の評価を頂きました。林さんには、本日の「まとめ」をオンラインジャーナル3月号にご寄稿頂く予定です。また4月頃には、今回の研究成果を出版のご予定とのことですので、改めてご案内致します。

お寄せ頂きましたアンケート結果は、下記の通りでした。(総数：7件)

質問1：参加の目的・期待は達成されましたか？(YES：7件)

質問2：今後も「P2Mクラブ」に参加されますか？(YES：6件/Other：1)

質問3：プログラム構成(全体)について？(良かった：7件)

質問4：今回の話題提供について？(良かった：7件)

(コメント)

- ・期待以上のお話を伺い、大変満足しています。
- ・清水先生から様々なお話が聞けて、今後の研究に活かしたいと思います。
- ・サービスのデザインはサプライサイドからの押し付けのものであってはならない。徹底的に、ユーザー目線にたったものでなければならない。
- ・サービスはいずれ陳腐化し、飽きられてしまう。それを如何に防ぎ、イノベーションを継続できるかがポイントである。
- ・”共創”の scope をどのように広められるかが重要と思われる。垂直統合型モノ作りカルチャーとは相容れないのではないか？
- ・サービス品質の評価指標が難しい。現場担当者を動機づける分かり易い指標が必要だ。

質問5：Networking(参加者交流)について？(良かった：7件)

質問6：事務局対応について？(良かった：7件)

質問7：「P2Mクラブ」の企画・運営に事務局として参加頂けますか？

(YES：1件、NO：1件、Other：5件)

質問 8 : 「(参加者満足度) 最高の P2M クラブ」へと進化させるためのアイデアが ありましたら、教えて下さい！ (自由記述)

・特に無し

質問 9 : 次回の「話題提供者」として推薦 (自薦・他薦) したい方をご提案下さい！

・特に無し

質問 10 : その他、ご提案やご意見など、ご自由にご記入ください！

・”顧客満足度のバラツキを最小の状態に保持する活動”が、これから重視されるトレンドになると考えた。

#### 第 10 回「P2M クラブ」2015 年 12 月 9 日 (水) 7 : 00~9 : 30

「今、企業の PMIS (Project Management Information System) の現場で起こっていること、起ころうとしていること……。」

……by 加藤 亨 (千代田システムテクノロジーズ (株) IT 事業本部 本部長)

概要 :

新入社員として入社して最初の仕事が IBM のホストコンピュータで PMIS (Project Management Information System) を使い、海外ビッグプロジェクトのスケジュール、要員管理を実施することだった加藤が、その後の PMIS とのかかわりの中で、経験してきたこと、そして、数十年を経た今なお、日本企業の PMIS 導入の現場とのかかわり続けている中で、PMIS がどのように進化を遂げて来ているか、また、進化していこうとしているのかを、あくまでも個人的見解としてお話しします。

プロフィール : 加藤 亨 (かとう とおる)

1978 年、千代田化工建設 (株) 入社後、同社の様々な情報化プロジェクトを担当。

1999 年、同社の情報子会社 IT エンジニアリング (株) (現社名、千代田システムテクノロジーズ (株)) 設立とともに移籍。ネットワーク事業部長、EPM 事業部長、C-IT 事業部長、N-IT 統括 兼 C-IT 統括などを歴任。

現在、取締役 常務執行役員 IT 事業本部長。

本日は「第 10 回 P2M クラブ～朝活セミナー～」に参加頂きましてありがとうございます。8 名の方に参加頂きまして、大変有意義な会合だったと思います。

「今、企業の PMIS (Project Management Information System) の現場で起こっていること、起ころうとしていること……。」というテーマで、話題提供頂きました 加藤 亨 (千代田システムテクノロジーズ (株) IT 事業本部) さんに改めましてお礼申し上げます。PMIS の「昨日、今日、明日」について、非常に広範にわたって、分かり易く紹介頂きました。特に、下記のような観点から、PM への期待が述べられました。

> 日本の製造業は、現場の生産技術力や徹底した品質管理に基づく高品質なモノづくりで、世界市場で闘ってきました。その結果、顧客やマーケットよりも技術重視の経営体質となり、生産工程別の縦割りの傾向の強い組織体質が継続される傾向にあります。

> □日本の情報産業は、70年代の政府主導の大手メーカを頂点とした分業体制、情報子会社化による利用者と開発者の役割分担化という歴史の中で、実ビジネスから独立した「システム製造業」として発展してきました。その結果、縦割り横割りの産業構造の中で、販売は製品中心の販売戦略、製造は仕様通りコーディングのみを行う労働集約産業という、欧米の創造性にあふれた産業とはちょっと異なる形態となっています。

> □今、世界を見渡すと、ICTの革新的な成果を産業に直接生かそうする大きな流れが起り始めています。一方で、行きすぎた資本主義的自由主義への反省から、企業の社会的責任が強く叫ばれ、ガバナンスの強化、透明性の徹底による説明責任の履行が大きな要求となっています。

> □縦割り組織の壁を打ち破れない日本企業が、ICTで統合化を実現した海外企業とどう戦うのか、また、情報の流れがせき止められた日本企業が、どのように世界市場に対して説明責任を果たしていくのか、その課題に、PM業界はどのように貢献できるかについて、PMISという視点から議論を進めていきます。

お寄せ頂きましたアンケート結果は、下記の通りでした。(総数：6件)

質問1：参加の目的・期待は達成されましたか？(YES：6件)

質問2：今後も「P2Mクラブ」に参加されますか？(YES：6件)

質問3：プログラム構成(全体)について？(良かった：6件)

質問4：今回の話題提供について？(良かった：6件)

(コメント)

・今後の進める方向性が理解できた。

・CTS社のビジネス事例を通じて、社会の大きな流れを感じ取ることができました。

・日本の産業界がICTで再び世界をリードできるようになるために、PMコミュニティが貢献しなければならないと思いました。

質問5：Networking(参加者交流)について？(良かった：6件)

質問6：事務局対応について？(良かった：6件)

質問7：「P2Mクラブ」の企画・運営に事務局として参加頂けますか？

(YES：1件、NO：2件、Other：3件)

質問8：「(参加者満足度)最高のP2Mクラブ」へと進化させるためのアイデアがありましたら、教えて下さい！(自由記述)

(コメント)

・PM以外の異業種の有名人を呼ぶ(ソフトバンク、グーグル、アップルなど)

・他のPMAJの活動も紹介して下さい。

質問 9：次回の「話題提供者」として推薦（自薦・他薦）したい方をご提案下さい！

・特に無し

質問 10：その他、ご提案やご意見など、ご自由にご記入ください！

・ICT で日本を変える必要があるというお話を、もっと聴きたいと思いました。

## 第 09 回「P2M クラブ」2015 年 10 月 14 日（水） 7：00～9：30

「プロジェクトのよろこびと恩寵 ～経験の棚卸しを～」

・・・by 中嶋 秀隆（プラネット（株） 代表取締役）

概要：

この会の参加者はプロジェクト経験が実に豊富な人たちです。そして、業界も多岐にわたります。今回は各人の経験を持ち寄って棚卸しをし、（可能なら）ゆるやかに整理してみたいと考えています。参加者が何らかの新たな発見をすることが目標です。

進行は双方向が基本です。前半で中嶋が問題提起のプレゼンをします。その中でいくつかの「問い」を立てますので、参加者はつど、答えを書き出してください。休憩をはさみ、後半では参加者が自由に選んだ「問い」について、それぞれの答えを発表してもらいます。いつも心血を注いで取り組んでいるプロジェクトに、今回は、ポジティブな光を当て、そのよろこびと恩寵を考えてみましょう。いつもとは違う面に気づくことでしょう。大勢の方の積極的な参加を期待しています。なお、目次と「問い」（のたたき台）は次の通りです。

+++++

はじめに

**Part 1** プロジェクトの贈り物

問 1：「私のいち押しプロジェクト」

問 2：「プロジェクトが教えてくれたこと」

問 3：「私のプロジェクト人脈」

**Part 2** 私を励ます言葉

問 4：「私を励ます言葉」

**Part 3** これが幸せでなきゃ

問 5：「私のよろこび」

まとめ

+++++

プロフィール：中嶋 秀隆（なかじま・ひでたか）

プラネット（株） 代表取締役

（株）マネジメントソリューションズ 顧問

『PMBOK® ガイド』（第 2～5 版） 翻訳委員

慶応義塾大学、筑波大学非常勤講師

中京大学大学院客員教授

英語のジョークを楽しむ会・会員

京セラ（海外営業）、インテル（国際購買マネジャー、法務部長、人事部長）など、日米の有力企業に約 20 年間勤務。その後、独立して PM 研修、コンサルに携わる。

『PM プロジェクトマネジメント』 『世界一わかりやすいプロジェクトマネジメント』など、PM 関連の著書・訳書多数。

本日は「第 9 回 P2M クラブ～朝活セミナー～」に参加頂きましてありがとうございます。

7 名の方に参加頂きまして、大変有意義な会合だったと思います。

「プロジェクトのよろこびと恩寵 ～経験の棚卸しを～」というテーマで、話題を提供頂きました中嶋 秀隆（プラネット（株） 代表取締役）に改めまして お礼申し上げます。

参加者は少なかったのですが、これまでとは違って、ワークショップ形式での話題提供は新鮮でした。

1. 私のいち押しプロジェクト
2. PM が教えてくれたこと
3. 私のプロジェクト人脈
4. 私を励ます言葉
5. これが幸せでなきゃ

という質問を織り交ぜながら、PM 経験の棚卸作業は興味深いモノでした。

発表を通じて、それぞれのバックグラウンドも分かり、交流の一助になったと思います。

お寄せ頂きましたアンケート結果は、下記の通りでした。（総数：5 件）

質問 1：参加の目的・期待は達成されましたか？（YES：5 件）

質問 2：今後も「P2M クラブ」に参加されますか？（YES：5 件）

質問 3：プログラム構成（全体）について？（良かった：5 件）

質問 4：今回の話題提供について？（良かった：5 件）

（コメント）

- ・自分の経験を振り返る機会になりました。
- ・頭の整理ができました。
- ・”プロジェクトの贈り物”をありがたく頂戴しました。
- ・とてもよいお話を聞かせていただきました。

質問 5：Networking（参加者交流）について？（良かった：5 件）

質問 6：事務局対応について？（良かった：5 件）

質問 7 : 「P2M クラブ」の企画・運営に事務局として参加頂けますか？

(NO : 2 件、Other : 3 件)

質問 8 : 「(参加者満足度) 最高の P2M クラブ」へと進化させるためのアイデアがありましたら、教えて下さい！ (自由記述)

・特に無し

質問 9 : 次回の「話題提供者」として推薦 (自薦・他薦) したい方をご提案下さい！

・特に無し

質問 10 : その他、ご提案やご意見など、ご自由にご記入ください！

・今日は本当にありがとうございました。

## 第 08 回「P2M クラブ」2015 年 8 月 26 日 (水) 7 : 00 ~ 9 : 30

「プロジェクトマネジメント診断 ～振り返りのススメ～」

・・・by 柳 知宏 (イノベーションマネジメント株式会社)

概要 :

普段、なおざりになりがちなプロジェクトの振り返り・・・残念ながら失敗に終わったプロジェクトは、その要因分析する事も多い一方で、特に成功したプロジェクトは"やりっぱなし"になっている事も多いのではないのでしょうか。失敗の原因にも、成功の要因にも、プロジェクトを成功に導くエッセンスがつまっており、組織としてプロジェクトを定量的に調査・分析し、ナレッジを蓄積する仕組み作りが重要となります。

今回は「プロジェクトマネジメント診断」と題し、プロジェクトの振り返りの観点から、プロジェクトマネジメントの実践度合を定量的に可視化する手法とその運用について、事例を交えて話題提供をさせていただきます。また、議論を通じ、P2M 資格者の皆様がプロジェクトの振り返りにどのように取り組まれているか、情報交換の場にもさせていただければ幸いです。皆様のご参加をお待ちしております。

プロフィール : 柳 知宏

イノベーションマネジメント株式会社 シニアコンサルタント

2010 年 早稲田大学を卒業後、コンサルティング会社へ入社。自動車関連企業におけるプロジェクトコストマネジメントの運用支援等を経験。

2011 年 イノベーションマネジメント株式会社へ入社。製薬企業へのプロジェクトマネジメントシステムの導入・運用支援プロジェクトや、医療機器企業における BPR プロジェクト等を経験。

2014 年 PMS を取得。

昨日は「第 7 回 P2M クラブ」に参加頂きましてありがとうございます。15 名の方に参加頂きまして、大変有意義な会合だったと思います。

「プロジェクトマネジメント診断 ～振り返りのススメ～」というテーマで、話題を提供頂きました柳知宏さん（イノベーションマネジメント株式会社）に改めましてお礼申し上げます。

お寄せ頂きましたアンケート結果は、下記の通りでした。（総数：11件）

質問1：参加の目的・期待は達成されましたか？（YES：11件）

質問2：今後も「P2Mクラブ」に参加されますか？（YES：11件）

質問3：プログラム構成（全体）について？（良かった：10件、改善の余地あり：1件）

質問4：今回の話題提供について？（良かった：9件、その他：2件）

（コメント）

- ・評価指標（行動系）の実例を丁寧にご説明頂き参考になりました。

- ・人の動き様がプロジェクトの成否を決める要素。

顧客・自社ともにプロジェクトでの人の「動き様」の評価・振り返りは必要である。

- ・成功したプロジェクトでの検証がてきとうになっていないかと考えさせられた。

- ・プロジェクトの振り返りが組織に与える機能についての解説があれば良かった。

- ・実務にも役立つ内容でした。

- ・資料配布があればもっと良かった→後から頂けるとのことなので Good！です。

→別途、参加者限定で配布できるよう致します。（事務局）

質問5：Networking（参加者交流）について？（良かった：8件、その他：3件）

- ・初参加のため、まだ評価できません。

質問6：事務局対応について？（良かった：10件、その他：1件）

質問7：「P2Mクラブ」の企画・運営に事務局として参加頂けますか？

（YES：2件<久保田さん、佐々木さん>、NO：5件、Other：4件）

質問8：「（参加者満足度）最高のP2Mクラブ」へと進化させるためのアイデアがありましたら、教えて下さい！（自由記述）

- ・困っていることについて、テーマを取り上げる。

- ・参加者交流の促進が有効と思います。

- ・早朝はやはり難しいので、夕方のセミナーも検討して貰えればと思います。

→「Networking（会員交流会）」「PMRクラブ」は夕方に開催しています。（事務局）

質問9：次回の「話題提供者」として推薦（自薦・他薦）したい方をご提案下さい！

- ・長尾 清一（ピーエム・コンセプト）「問題プロジェクトの火消術」

→ボランティアで受けて頂けるか打診してみます。（事務局）

- ・徳山 豊（国際大学 GLOCOM）ビッグデータの活用～社会的課題解決へ向けた～

→次々回以降で、是非お願いしたいと思っています。（事務局）

質問10：P2M/P2Mクラブを、更に普及拡大させるアイディアがありましたらお寄せ下さい。

- ・朝会は皆勤です。引き続き、継続してもらえるとありがたいです。
- ・今後もチャンスがあれば参加させていただきます。ありがとうございました。

## 第 07 回「P2M クラブ」2015 年 6 月 10 日（水） 7:00~9:30

### 「P2M が役に立った時」

・・・by 渡部 寿春（イーストタスク株式会社）

概要：

P2M との出会いから 10 年目。IT と経営をつなぐことをテーマに独自の IT コンサルティングを探求しました。実務は銀行の情報システムが中心であり、システム部、ユーザー部、CIO 室、ベンダー側開発、経営企画、起業、とプロジェクトのバリエーションは多彩です。今回は、10 年間の実務経験の中で P2M が役に立った時のことをお話します。交流会では、参加者の方から、役に立った時のことを伺えれば幸いです。

- ・ 経営企画の時
- ・ 案件リーダーの時
- ・ 要件定義の時
- ・ 起業の時
- ・ 共同化の時
- ・ SOA 化の時
- ・ 規制対応の時
- ・ 火消 PMO の時
- ・ 海外 M&A の時
- ・ 中期計画の時
- ・ マル経融資の時
- ・ IT コーディネータ試験の時

プロフィール： 渡部 寿春

システムエンジニアとして働いた後、英国 Abertay University, MBA に留学 (2003-2005)。

2005 年 インディアアクションプラン株式会社に入社。経営企画、プロジェクト運営、営業、銀行のシステム案件を担当。

2009 年 イーストタスク株式会社を設立。システム共同化、SOA 化プロジェクト、海外規制対応プログラム、リカバリーPMO、海外 M&A プロジェクト、中期計画プロジェクトに携わる。

2011 年より東京 P2M 研究会に参加、2012 年より代表幹事。PM シンポジウム 2012 より実行委員。PMR (2012)。IT コーディネータ (2013)。

本日は「第7回 P2M クラブ」に参加頂きありがとうございます。16名の方に参加頂きまして、大変有意義な会合だったと思います。「P2M が役に立った時」というテーマで、興味深い話題を提供頂きました渡部寿春さん（イーストタスク株式会社）に改めましてお礼申し上げます。

お寄せ頂きましたアンケート結果は、下記の通りでした。（総数：10件）

質問1：参加の目的・期待は達成されましたか？（YES：10件）

質問2：今後も「P2M クラブ」に参加されますか？（YES：9件）

質問3：プログラム構成（全体）について？（良かった：9件）

質問4：今回の話題提供について？（良かった：9件）

（コメント）

- ・面白かった。
- ・大変有意義なお話を伺えました。
- ・P2M の実践事例として大変有意義でした。
- ・もっと掘り下げた実体験を聞きたかった。
- ・いろいろな業種の方とのコミュニケーションがとれました。

質問5：Networking（参加者交流）について？（良かった：9件）

質問6：事務局対応について？（良かった：10件）

質問7：「P2M クラブ」の企画・運営に事務局として参加頂けますか？

（YES：2件、NO：3件、Other：4件）

質問8：「（参加者満足度）最高の P2M クラブ」へと進化させるためのアイデアがありましたら、教えて下さい！（自由記述）

- ・マネジメントする上での苦労話や失敗談を聞いてみたい。
- ・テーマにコーチングを取り込みたい

質問9：次回の「話題提供者」として推薦（自薦・他薦）したい方をご提案下さい！

（特に無し）

質問10：P2M/P2M クラブを、更に普及拡大させるアイデアがありましたらお寄せ下さい。

- ・伝道師の育成

第06回「P2M クラブ」2015年4月8日（水） 7：00～9：30

「プロジェクトマネジメント・スキルと P2M ガイドブック」

・・・by 鎌賀 信吉（外資系コンサルティング会社）

概要：

プロジェクトマネジャーには、様々な特殊技能が要求されます。

- ・ 収支を見通せること
- ・ メンバーが困ったときに相談されること
- ・ メンバーのモチベーションを維持できること
- ・ 意見の違う人たちをファシリテーションできること
- ・ リスクと上手に付き合えること  
などなど

このような技能を身につけ、実践するにあたり、プロジェクトマネジメントというスキルはどのように役にたつのでしょうか。P2M 研究会において研究のテーマとしているこの内容につきまして、その一端をご紹介させていただき、意見交換できれば幸いです。

プロフィール：鎌賀 信吉

1991 年国内システムインテグレーター入社。基幹システム開発プロジェクトにて PMO 担当。

1998 年より ERP システム導入に携わり、製造業を中心にプロジェクトマネジメントを担当。

現在外資系コンサルティング会社に所属。

PMP PMR 国際 P2M 学会会員

昨日は雨の中、「第 6 回 P2M クラブ」に参加頂きありがとうございます。15 名の方に参加頂きましたが、大変有意義な会合だったと思います。

「プロマネ人材育成と評価」という興味深い又難しいテーマにつきまして、話題を提供頂きました鎌賀様に、改めましてお礼申し上げます。

お寄せ頂きましたアンケート結果は、下記の通り「満足度 100%」でした。(総数：7 件)

質問 1：参加の目的・期待は達成されましたか？ (YES：7 件)

質問 2：今後も「P2M クラブ」に参加されますか？ (YES：7 件)

質問 3：プログラム構成 (全体) について？ (良かった：7 件)

質問 4：今回の話題提供について？ (良かった：7 件)

(コメント)

- ・ IT 業界のプロマネの育成方法を知ることができて良かった
- ・ 久しぶりに PM のスキルセットについて考える良い機会となりました
- ・ 個人的にもとてもインスパイアされました

質問 5：Networking (参加者交流) について？ (良かった：7 件)

質問 6：事務局対応について？ (良かった：7 件)

質問 7：「P2M クラブ」の企画・運営に事務局として参加頂けますか？

(YES：1 件、NO：3 件、Other：3 件)

質問 8 : 「(参加者満足度) 最高の P2M クラブ」へと進化させるためのアイデアが ありましたら、教えて下さい！ (自由記述)

- ・魅力的なテーマ策定だと思いました
- ・ブログなどを活用して、話題提供の常設メディアを作ってみてはいかがでしょうか
- ・多くの人が軽い負担で、情報発信できれば、P2M クラブの価値も、より向上するものと思います

質問 9 : 次回の「話題提供者」として推薦 (自薦・他薦) したい方をご提案下さい！

(お名前) Living in PEACE

(連絡先) lip.inquiry@gmail.com

(仮テーマ) 「マイクロファイナンスと児童養護施設の異なる 2 つのプロジェクトマネジメント」

質問 10 : その他、ご意見・ご感想をお寄せ下さい！

- ・10 名以上の参加者で、色々な話が聞けて、大変参考になりました
- ・継続的に参加していきたいと思います
- ・理事長しゃべり過ぎ！！

第 05 回「P2M クラブ」2015 年 2 月 10 日 (火) 7 : 00 ~ 9 : 30

「P2M のミッションプロファイリングと 3S モデルの活用事例紹介」

～中食製造業の業務改革での適用事例～

・・・by 藤澤 正則 (デリア食品株式会社)

概要 :

今回はこれまで弊社で進めてきた、「P2M のミッションプロファイリングと 3S モデルの活用事例」について、皆様との議論を深めたいと考えております。

デリア食品(株)は、キューピーグループの食品事業 5 事業の中でサラダ・惣菜事業に属し、毎日買っていただける惣菜などの商品を 365 日提供するビジネスを全国で展開しています。このマーケットは国内市場において成長性が高く、様々な業態が参入することから、競争が激しく環境変化も早くなっています。従来のもので作りは、「確実性、継続性、標準化」をベースに進められてきました。業務改革は、「しくみを使って価値を生むサービスモデル」と「しくみを作るシステムモデル」をつないで変化に対応してきました。しかし上記のような環境変化の中にあって、プロジェクトのような「不確実性、有期性、個別性」の要素や、プログラムのような「不確実性、多義性、拡張性」の考え方を取り入れ、変化を予測しながら変化を創り出すことの必要性が出てきています。そこで P2M の特徴である、「想いやしくみをプロファイリングするスキームモデル」と「しくみを作るシステムモデル」「しくみを使って価値を生むサービスモデル」をつないだ 3S モデルで進める業務改革を、「しくみづくりと人づくり」で進めてきています。その中から、「事業

内統合PJ」「事業統合工場計画PJ」「事業戦略構想PJ」について、その概要をご紹介します。

プロフィール：藤澤 正則

1985年東京水産大学（現 東京海洋大学）食品工学科卒、同年キューピー(株)入社。生産部門、エンジニアリング部門に経験後、CVS 関連の組合に出向し、原料から販売までの仕組み構築PJなどに関わる。出向終了後、2005年より、サラダ・惣菜事業の事業などのしくみづくりや人づくりに関わっている。現在、デリア食品(株)生産本部に在籍。2006年より東京P2M研究会に参画。PMS/PMR。PMAJ 会員。国際P2M学会会員。日本冷凍空調学会会員。日本食品工学会会員。

昨日は寒い中、「第5回 P2M クラブ」に参加頂きありがとうございます。13名の方にご参加頂きましたが、大変盛り上がった交流会だったと思います。10年間に及ぶ改革活動をコンパクトにまとめて、説得力ある話題を提供頂きました藤澤様に、改めましてお礼申し上げます。

お寄せ頂きましたアンケート結果は下記の通りでした。（総数：6件）

質問1：参加の目的・期待は達成されましたか？（YES：6件）

質問2：今後も「P2M クラブ」に参加されますか？（YES：6件）

質問3：プログラム構成（全体）について？

（良かった：5件、改善の余地あり：1件）

質問4：今回の話題提供について？（良かった：6件）

（コメント）

・まるで自分達の業務のお話を聞いている（コンサルティングの話）のようでした。言葉は変われど、改革の為に必要な要素は同じなんだな、と感じました。

・一つの工場の改善を経験して、他の工場へと横展開していくスキームを理解することができました。

・10年に渡る実務でのプロジェクト経験をベースとした説得力のあるお話でした。

・とても良かったです。ありがとうございました。

質問5：Networking（参加者交流）について？

（良かった：3件、改善の余地あり：2件、その他：1件）

質問6：事務局対応について？（良かった：5件、その他：1件）

質問7：「P2M クラブ」の企画・運営に事務局として参加頂けますか？

（YES：2件、NO：2件、Other：2件）

質問8：「(参加者満足度) 最高の P2M クラブ」へと進化させるためのアイデアがありましたら、教えて下さい！（自由記述）

・自己紹介は、最初の方が良いと思います！

- ・食事をとっていると、ネットワーキングしている時間がありません。
- ・参加者の間での SNS 等で、P2M クラブ場外でもお話しできれば良いと思います。

質問 9：次回の「話題提供者」として推薦（自薦・他薦）したい方をご提案下さい！

（お名前）かものはしプロジェクトの田村代表

（連絡先）

（仮テーマ）「NPO 組織のプロジェクトマネジメント（企業との違い）」

質問 10：その他、ご意見・ご感想をお寄せ下さい！

- ・特に無し

## 第 04 回「P2M クラブ」2014 年 12 月 10 日（水） 7：00～9：30

「水リスクの事」・・・内田 淳二（PMAJ 理事）

概要：

世界人口の増加と都市型社会への移行が止まらず、グローバルリスクのトップ 10 に水不足が上がるようになりました。国内においても、人口減と少子化が止まらず水事業の持続的発展への道筋が問われる時代に遭遇しています。水問題は、多くのステークホルダーの関与が必要な複雑系問題の最たるものとされています。今回セミナーでは、以下に示す水リスクの背景となる基本知識について話させていただき、P2M 資格者の皆さんとの意見交換ができれば、ありがたいと思っております。

1. 世界と日本の水問題／水資源は、足りているのか？
2. 水循環基本法について／生命の水を育む水循環とは？
3. 企業の水リスク／食糧・エネルギー・水は、不可分の関係にあります。
4. 当社の紹介／水 ing は「新・水時代」をリードします。

以上 皆様のご参加をお待ちしております。

プロフィール：内田 淳二

1979 年 京都大学 交通土木工学科(現 地球環境工学科)卒業

同年 東洋エンジニアリング株式会社に入社し、海外プロジェクト事業、国内産業システム事業、医薬プロジェクト事業などで主として空間設計業務を担当

2001 年 三井物産、千代田化工建設、東洋エンジニアリング、荏原製作所が共同出資した(株)エンバイロメンタルエンジニアリングに出向、中国向け環境事業の FS 調査、排煙脱硫プラントの QC マネジャーなどを担当

2002 年 PMS、2005 年 PMR

2007 年 東洋エンジニアリング(株)を退社し、(株)荏原製作所に完全移籍

現在 水 ing(株)にて、安全保障貿易管理室長

第 03 回「P2M クラブ」2014 年 10 月 29 日（水） 7:00~9:30

「プロジェクトマネジメントにおけるアート×サイエンスの効用」

・・・ 本間 周二（株式会社シーズメッシュ代表取締役）

概要：

本セミナーでは、アートが持つ力と、サイエンスの側面からのアプローチを、プロジェクトマネジメントの世界で生かす、いくつかの取り組み事例をご紹介します。プロジェクトを成功に導くために、プロジェクトマネジャーに持っていただきたい思考法のヒントになれば幸いです。

（プロフィール） 本間 周二（ホンマ シュウジ）

株式会社シーズメッシュ代表取締役

グロービス経営大学院卒 MBA

日本科学技術連盟 SQiP ステアリング委員

大学で美術教師の資格を得るも、IT の将来性に惹かれ SE の道へ。大手 SIer で 40 件超のプロマネを経験したのち、品証部門で定量データの活用による科学的管理の仕組み作りに携わる。約 2000 件の IT プロジェクトデータを収集し、確度の高い見積り、品質管理に生かすことで、トラブルプロジェクトの撲滅に貢献した。その後、経産省主導のソフトウェアエンジニアリングセンター（IPA/SEC）の立ち上げに参画、IT プロジェクトにおけるデータ活用の基盤作りに寄与。2008 年、外資系大手コンピューターメーカーに移り、組織横断の改善チームをリード。2013 年、株式会社シーズメッシュを設立、代表に就任。著書（共著）に「ソフトウェア開発データ白書 2005~2007」「ソフトウェア品質知識体系ガイド・SQuBOK」ほか。

◆ 株式会社シーズメッシュのご紹介

弊社は「アート×サイエンスで次代を創る」を理念に掲げるブランドプロデュースの会社です。私たちは、人々の感情や五感に訴える製品やサービスづくりを進める一方で、行動観察やデータ分析、モデリング手法などを積極的に取り入れ、戦略策定や企画の立案、現場改善などの場面で、お客様が ”より実感を持って課題の本質を捉えられるよう”、ご支援を行っています。弊社に関する詳細は [こちら](#) をご参照ください

第 02 回「P2M クラブ」2014 年 8 月 27 日（水） 7:00~9:30

「PMR 実践、プロジェクト化による課題解決」

・・・ 中村 元哉「PMR クラブ」代表幹事

概要：

構想し、且つ、実行を続けている PMR メンバーによるパネルディスカッションが、PM シンポジウム 2014（9/4~5 開催）で予定されています。⇒「変化を恐れず、変化を楽しむ 人生 1/6 の楽しみ方 ~仕事の悩みはプロジェクト化で解決する~」

今回の P2M クラブでは、この PM シンポジウムの内容を先取りして、PMR メンバーの実践事例を紹介します。様々なビジネス領域で活動を推進している PMR メンバーは、所与のプロジェクトの遂行だけでなく、意図的に「プロジェクト化」することで、課題解決を実践しています。この場での交流を通じて、参加される P2M 資格者の皆様が、各々のビジネス領域でご活躍される一助となれば幸いです。

(プロフィール)

株式会社 I H I エネルギー・プラントセクター PJ サポート部 部長 中村 元哉  
東京工業大学工学部卒業。株式会社 I H I において、国内外の発電プラントプロジェクトの R&D、エンジニアリング、プロジェクトマネジメント、ロジスティクスに携わり、現在はプロジェクトサポート機能を統括。PMAJ 認定 PM レジスタード。PMR クラブ代表幹事。東京 P2M 研究会会員。グロービス経営大学院。MBA。

お忙しい中、「第 2 回 P2M クラブ-8/27」に参加頂きましてありがとうございます。如何でしたでしょうか？ 下記の如く、様々なご意見・ご感想をお寄せ頂きましてありがとうございます。今後の企画・運営に活かしてまいります。今後ともよろしくお願ひ申し上げます。

質問 1 : 参加の目的・期待は達成されましたか？

【YES : 6】 【NO : 】 【その他 : 】

- ・コンサル会社にはない事例を聞いた
- ・他の業界のお話を伺うことができた
- ・新しいメンバーと交流が図れた

質問 2 : 今後も「P2M クラブ」に参加したいと思いますか？

【YES : 6】 【NO : 】 【その他 : 】

- ・継続的に勉強、コミュニケーションをとりたい
- ・異業種が集まれる
- ・異業種との交流が図れる
- ・次回もまいります

質問 3 : プログラム構成 (全体) についてお尋ねします。

【良かった : 5】 【改善の余地あり : 1】 【その他 : 】

- ・朝食バイキングは良い企画
- ・小さなグループでディスカッションが出来れば良いと思います  
(対応策)

- ・プログラムの中で出来るだけグループディスカッションを取り込むように工夫します

質問 4 : 話題提供について？

「PMR 実践、プロジェクト化による課題解決」 by 中村 元哉 (「PMR クラブ」代表幹事)

【良かった：6】【改善の余地あり：】【その他：】

- ・入口の重要さを改めて感じた。
- ・と同時に、場の作り方、コアメンバーの集め方など、案件ごとの課題もありそうだと感じた。
- ・成功事例など事例が豊富だった
- ・「六分の一の楽しみ方」共有のきっかけづくりが出来た

質問 5：Networking（参加者交流）について？

【良かった：4】【改善の余地あり：1】【その他：】

- ・時間が足りない
- ・活発な意見交換ができた

質問 6：朝食バイキングについて？

【良かった：4】【改善の余地あり：1】【その他：1】

- ・席が話しにくい
- ・フルーツが少ない
- ・野菜をいっぱい食べて、朝から元気になりました

質問 7：事務局対応（会費、時間帯及び進行方法など）について？

【良かった：6】【改善の余地あり：】【その他：】

・子育て中のため、夜のセミナーや研修会には参加できません。朝は大変助かります。今後も朝をお願いします！

質問 8：「(参加者満足度) 最高の P2M クラブ」へと進化させるためのアイデアがありましたら、教えて下さい！

(自由記述)

- ・交流機会をどんどん増やす
- ・企画内容、テーマを絞り、発展進化させる
- ・アンケートを短めをお願いします。

(対応策)

- ・アンケートフォームを見直します

質問 9：「P2M クラブ」の企画・運営に事務局として参加頂けますか？

【参加したい 1】【参加は無理：2】【その他：1】

- ・業務の状況が見えないため
- ・時間的に余裕があれば・・・
- ・その内、スピーカー（話題提供）は対応させて頂きたいと考えております
- ・P2M 研究会、PMR クラブに参加しています

質問 10：次回の「話題提供者」として推薦（自薦・他薦）したい方をご提案下さい！

- ・現時点では・・・

(推薦者)

- ・仮テーマ名：
- ・御名前：
- ・所属名：
- ・メルアド：

質問 11：その他、どのようなことでも結構です。ご意見・ご提案をお寄せ下さい！

(自由記述)

- ・今回もありがとうございました
- ・次回も期待しています

ありがとうございました！

第 01 回「P2M クラブ」2014 年 6 月 18 日（水） 7：00～9：30

「改訂 3 版 P2M 標準ガイドブック」大改訂のウラ話

・・・by 光藤理事長

概要：

「P2M 標準ガイドブック」が約 7 年振りに全面大改訂され、今月から発売開始されています。日本発のプログラム&プロジェクトマネジメントの知識体系を、更に分かり易く、実践的に全面大改訂致しました。多くの方々から「格段に分かり易くなった！」という評価を頂いています。事業経営が求めている変革と協創を成功に導く、これからのリーダーとプロフェッショナルの必読書です。その改訂意図と内容、世界の PM 協会の動きと今後の展開策等を解説致します。P2M 資格者皆さまからの忌憚のないご意見を頂ければ幸いです。(当日は、改訂版の即売も予定しています)